

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：事業に対する満足度				指標の求め方：1年間の交付件数				指標の求め方：事業完了後の会館等使用再開時における事業に対する満足度（５段階評価中、大変良い、良いの回答を得た割合）						
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：事業に対する満足度				指標の求め方：事業完了後の会館等使用再開時における事業に対する満足度（５段階評価中、大変良い、良いの回答を得た割合）										
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期	
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	総 合 計 画 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 5	5	5		5	5	5		5	5	5	5			
		実績値	7	6	11		6										
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	80	80	80		80	80	80		80	80	80	80			
		実績値	100	83	82		100										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっていない										
		総合評価					普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 活動指標、成果指標は共に計画値を上回っている。地域住民のコミュニティ形成を図る場としての町内会館を確保する効果があったと考えられる。また、事業について理解が進み、問い合わせも増えていることから、会館の維持管理についての意識が向上していると考えられる。	自己分析： 前年度に比べ、活動指標、成果指標は共に減少したが、計画値を上回っている。安心・安全に地域住民のコミュニティ形成を図る場としての町内会館を確保する効果があったと考えられる。	自己分析： 交付件数については昨年度より増加し、活動指標は目標値を達成した。事業に対する満足度については昨年度より減少したが、成果指標は目標値を達成した。安心・安全に地域住民のコミュニティ形成を図る場としての町内会館を確保する効果があったと考えられる。	判断理由： 地域コミュニティ形成の場である町内会館の建設等に対し補助することは町内会活動の支援につながる事業であり、町内会が必要に応じて補助申請を行うことから、3・4年度の実績としては一定の効果があったものと考えられるため「普通である」と判断した。	自己分析： 前年度と比較し交付件数については減少したが成果指標による実績値については上回っている。安心・安全に地域住民のコミュニティ形成を図る場としての町内会館を確保する効果があったと考えられる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 事業の目的や対象について理解が進み、一定の効果があったものと考えられるため、安心・安全に地域住民のコミュニティ形成を図る場としての町内会館を確保していくため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：							

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：町内会連合会事業への補助額	指標の求め方：町内会連合会事業への補助額
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：町内会加入世帯数	指標の求め方：町内会加入世帯数（計画値は人口ビジョンによる減少率を反映）

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/千円)	計画値 528	実績値 528	528	528	528	528	528	528	528	528	528	528		
		成果指標1 (単位/人)	計画値 6,262	実績値 6,194	6,186	6,112	6,039	5,966	5,885	5,804	5,725	5,646	5,569			
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっていない										
		総合評価				普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 補助金の交付により連合会は健全に運営されており、行政と町内会の連携も図られている。成果指標については、砂川市の人口減少が人口ビジョンを上回るスピードで進んでいることもあり、達しなかった。	自己分析： 補助金の交付により連合会は健全に運営されており、行政と町内会の連携も図られている。成果指標については、砂川市の人口減少が人口ビジョンを上回るスピードで進んでいることもあり、計画値に達しなかった。	自己分析： 補助金の交付により連合会は健全に運営されており、行政と町内会の連携も図られている。成果指標については、砂川市の人口減少が人口ビジョンを上回るスピードで進んでいることもあり、計画値に達しなかった。	判断理由： 補助金の計画値どおりの交付により、連合会は健全に運営されており、行政と町内会の連携も図られているが、成果指標である町内会加入世帯数が、砂川市の人口減少が人口ビジョンを上回るスピードで進んでいることもあり、達成度については若干低い評価となるため「普通である」と判断した。	自己分析： 補助金の交付により連合会は健全に運営されており、行政と町内会の連携も図られている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 補助金の交付により町内会連合会の実施する事業が円滑に行われ、地域に暮らす人々とのつながりにより成り立つ地域コミュニティの最も基礎的な組織である町内会の活動の活性化を図ることができるため「現状のまま継続」とした。 今後は、町内会の取り組みを広く知っていただき、多くの方が積極的に参加できるような体制をつくるため、市ホームページ、チラシの配布などにより町内会活動を紹介し加入促進を図っていきたい。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：補助金額		指標の求め方：決定した事業への補助金支出額											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：制度利用率		指標の求め方：制度を活用して地域コミュニティの強化・充実を図っている町内会数/全町内会数											
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 4,317	4,317	4,317		4,317	4,317	4,317		4,317	4,317	4,317	4,317		
		実績値 3,388	3,490	3,530		3,592										
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 90	90	90		90	90	90		90	90	90	90			
		実績値 93	95	94		94										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響を受け事業を中止した町内会が多かったことに加え、予算額には若干の余裕を設定しているため、活動指標については達していないが、本制度の本来の目的については相当に浸透、普及が実現しており、活動実体のほぼ無い町内会を除き活用されている。また、各会長、役員から感想を聴取しているが、概ね好評を得ている。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響を受け事業を中止した町内会が多かったことに加え、予算額には若干の余裕を設定しているため、活動指標については達していないが、本制度の本来の目的については相当に浸透、普及が実現しており、活動実体のほぼ無い町内会を除き活用されている。また、負担の軽減と利便性向上のためオンラインでの申請を開始し、申請32件、実績報告16件の電子申請があった。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた事業を再開する町内会が少なかったことに加え、予算額には若干の余裕を設定しているため、活動指標については達していないが、本制度の本来の目的については相当に浸透、普及が実現しており、活動実体のほぼ無い町内会を除き活用されている。今後はHP掲載や町内会回覧での活動紹介の件数を増やしていき、町内会事業の促進を図る。	判断理由： 活動指標については、予算額に若干の余裕を設定していることから達していないが、本制度の本来の目的については相当に浸透、普及が実現しており、活動実体のほぼ無い町内会を除き活用されている。また、各会長、役員から感想を聴取しているが、概ね好評を得ているため「良好である」と判断した。	自己分析： 活動指標については達していないが本制度の本来の目的については相当に浸透、普及が実現しており、活動実体のほぼ無い町内会を除き活用されているため効果があったと考えられる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 本制度の本来の目的については相当に浸透、普及が実現しているが、全町内会に活用されることを達成するため継続していくこととしたい。また、町内会では高齢化や担い手不足などの課題を抱えており、行政としては地域コミュニティの維持のために必要な支援策について、今後も検討していく必要があるため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：委託料				指標の求め方：委託料合計									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：コミュニティセンター利用者数				指標の求め方：年間延べ利用者数									
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指 標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 4,408	3,809	3,809		4,536	4,536	4,536		4,536	4,536	4,536	4,536		
		実績値 4,394	15,416	20,746		13,960										
	成果指標 1 (単位/人)	計画値	22,165	22,165	22,165		22,165	22,165	22,165		22,165	22,165	22,165	22,165		
		実績値	8,876	13,462	17,866		18,453									
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない										
		総合評価				普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 成果指標である年間延べ利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により全体として減少傾向にあり、主に北と南コミュニティセンターが大幅に減少した。今後も施設の周知を継続し、利用者数の維持・増加に努めたい。	自己分析： 成果指標である年間延べ利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復し増加傾向にある。今後も施設の周知を継続し、利用者数の維持・増加に努めたい。	自己分析： 成果指標である年間延べ利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復し増加傾向にある。今後も施設の周知を継続し、利用者数の維持・増加に努めたい。	判断理由： 事業の達成度は一定の評価ができるが、成果指標である利用者数が計画値に満たないことなどから、総合評価は「普通である」とした。	自己分析： 成果指標である年間延べ利用者数は増加傾向にある。今後も施設の周知を継続し、利用者数の維持・増加に努めたい。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 引き続き事業を継続し、地域住民の生活、文化および教養の向上並びに健康の増進を図るため、効率的な運営と利用者数が増加するよう努める必要がある。 管理委託費については、原油価格や物価高騰による燃料費や光熱水費の増加、最低賃金上昇や人手不足による管理員報酬の見直しが必要となっており全体で増加傾向にある。				R8：				R10：					